会越　広谷川　**御神楽沢**

2009年9月21,22日
山本実(Ｌ)(記)、平本三浩

　9月後半のこの4連休で当初大井川の赤石沢を予定していたのだが、急な仕事で2日間しか休みがとれない状態。平本君にも快く了解してもらって御神楽沢へ変更した。
松田さんからも貴重なアドバイスをいただく。行先を思案するとなるとなぜか会越方面をまず考えてしまう。どういうわけか、要は相性の問題かな。

9/21(月)　晴
　深夜400㎞のロングドライブはさすがにこたえる。出発を早めたので仮眠の時間は何とかとれた。蝉平先の車止めから登山道を歩きだす。小一時間で湯沢の出合。栄太郎新道の登り口だ。明日はここへ下山する予定だが、気分よく降りてこられるか。この先10分ほどで踏跡は不明瞭となり沢へ降りて入渓。ゴーロ状の平凡な河原がつづくが、時々出てくる小滝は釜が大きくヘツリを楽しみながら通過する。

【入渓点付近】

正面にム沢の大滝が見えてくると左岸御神楽沢との分岐となる。本谷を少し行くと10mぐらいの瀞、腰から胸まで浸かって通過すると、すぐ大滝30mが出現する。

【本流を行く】

ここは左岸を巻くが、落口へのトラバースが悪そうでザイルを出す。灌木たよりに落口上部へと行くが適当な下降点がなく、更にザイルをのばして残置シュリンゲを見つけ10mほどの懸垂で沢へ戻る。続くゴルジュの中3～5mの滝が連続する。いずれも釜に腰まで入り磨かれたナメをフリクションたよりに乗越す。

【下部ゴルジュ】

残置シュリンゲを使ったA1あり、トイ状を開脚オポジションで越すボルダチックなムーブありで楽しい。そう簡単に登れず、かといって極めて悪くもなしで、平本君はアクアステルスの靴を頻りに自慢する。こちらはフェルト靴でだましだまし越してゆく。やはりこういう場面では装備の差は出てくるね。大小10か所以上の滝を登ってゴルジュを抜け出ると右岸より迫力のＤルンゼが合わさる。

【狭溢なゴルジュを突破】

そろそろ御神楽独特の雰囲気が醸し出される中、B，Cルンゼが流入し本谷は大きく右折して中の大滝25mが懸かる。傾斜は緩いが直登は無理で、左壁に凹角ラインが誘っている。平本リードでザイルをのばす。上部クラックでワンポイント悪いが快調に40mほどのばして落口へ。滝上からBルンゼ側をみると結構ド迫力だ。こういう所に入ってゆくモチベーションは何なのか考えさせられる。

　この先また谷は狭まってきて小滝を三つほど越すと、両岸切立ち深い釜をもった2段8mのえぐれた滝があらわれる。これが上部ゴルジュの入口であろう。過去中島パーテイは強力メンバーを擁して突破したのだが、我々は躊躇なく左岸高巻きを選ぶ。しかしこの高巻きも悪く、急傾斜の草付でザイルを出しての登りとなる。私はピンソールをつけて取付くが、平本君は滑りながら後続する。「フェルト靴だけでは相当きついでしょうね」以後ツルベで灌木と露岩を拾いながら左上していくと広いスラブ壁が谷に落込んでいる。上部の傾斜の緩いバンド状を30mほど下り気味に横断して灌木帯に入り、藪コギで格闘しながらようやく下降可能な場所へ出る。20mの懸垂で沢床へ降りる。これで上部ゴルジュ帯は完全に巻いた事になるが、2時間ほどの大高巻きになってしまった。薄暗くなってきた眼前には奥壁の大伽藍が圧倒的な迫力で広がる。一ノ倉を小ぶりにした感じと表現したら、御神楽岳に不遜だろうか。わずか1368mの山でこれだけの岩壁はちょっとないのでは？関東にあったら数多いルートが開かれていたと思わされる。その基部の河原状でツエルトを張った。

9/22(火)　小雨のち曇

　本谷ルンゼが当初の予定だが、体調があまり良くなく昨日の高巻きでＡＴＣガイドを紛失してしまったなどと言い訳を考えていたら、小雨が降りだしてきたので相談して入スポンジ沢へ変更する。この辺のこだわりはなくあっさりしたものだ。

【スポンジ沢の快適スラブ】

スポンジ沢の出合を見落とし、本谷ルンゼの流水溝へ少し登り出してしまったが、ミスに気がつき戻って1時間ほどロスしてしまう。

　スポンジ沢は貧弱なヤブ沢を辿るとスラブ帯が開け、左のイリと右のデトに分岐する。フラットソールに履き替え開放的なスラブをイリスポンジ沢へと登る。フリクションが効いて快適この上ないスラブ登りを楽しむ。ル

ートファインディングさえしっかりとれば、困難さはなくザイルを出さずにぐんぐん高度を稼いでゆく。とはいえスリップすればはるか下まで飛ばされてしまうだろう。本谷ルンゼは断念したが思わぬ拾い物をした気分だ。平本君はスポンジという名前が良くないと言う。時々見かける小穴がブツブツ開いている岩が語源のようだ。

【入りスポンジ沢上部】

高度差 300mあまり上部若干のヤブコギを経て 2 時間半ほどで稜線へ出る。時折ガスが去来するが天気は持ち直したようだ。

　ここからだと本峰頂上は時間がかかりそうなので、栄太郎新道を下降する。最初のうちは稜線歩きを満喫していたが、そのうちハイグレードハイキングの真価を発揮し出す。両側切れおちた岩場や鎖場が連続し、特にフィックスのないスラブに小砂利がのっているような斜面にはなかなか苦労させられた。途中眼前に広がる湯沢のスラブは本谷以上の迫力で一ノ倉の三スラを彷彿とさせる。湯沢の出合を経て車止めへ。御神楽温泉で湯に漬かり、途中立ち寄ったウドン屋で今早出に入った奥平パーテイと偶然出会い、ビックリ！中島さんも同行していて大いに話を咲かせた。

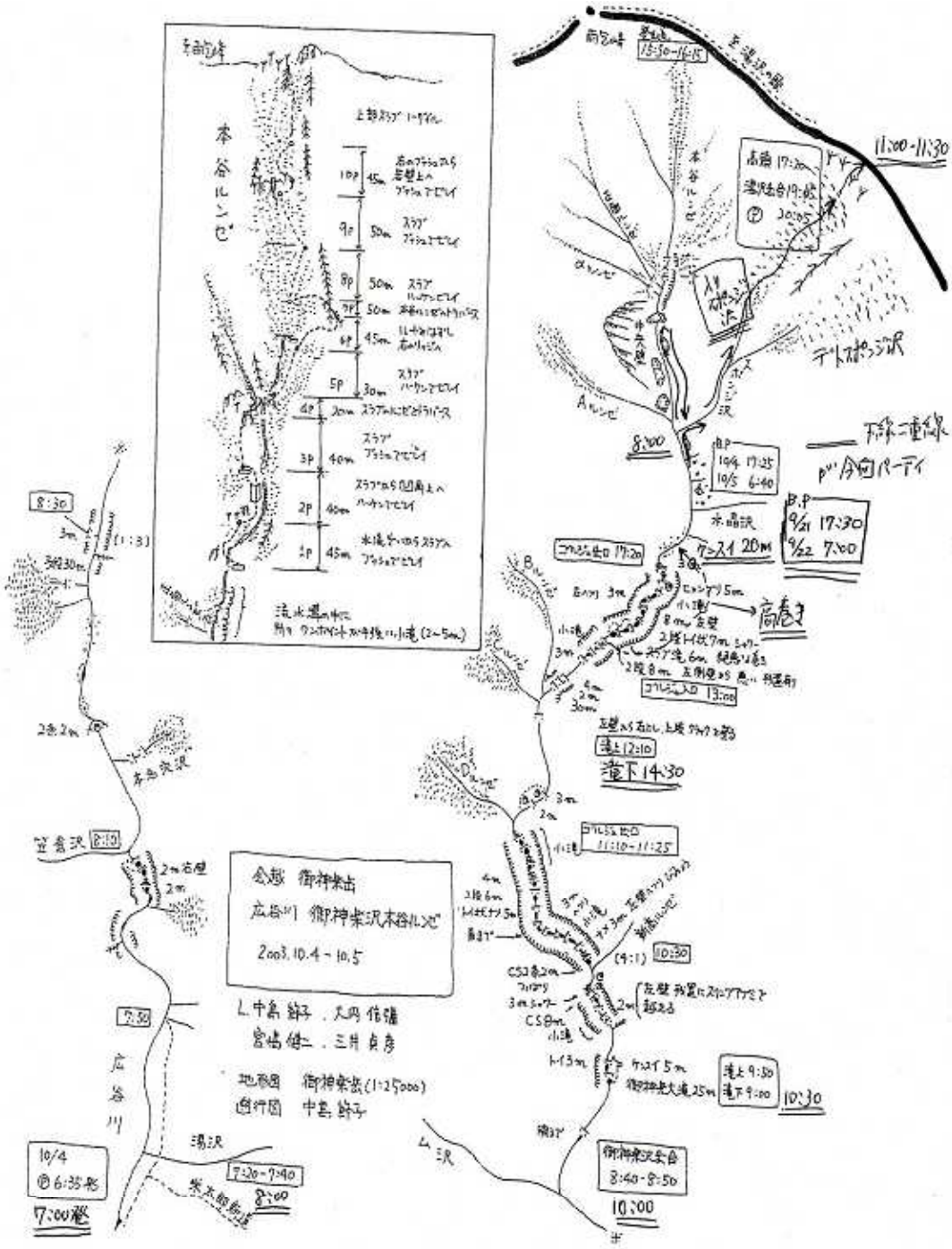
追記：遡行図は正確でアートのような中島さんのものに書き加えて添付しておきます。

9/21　車止め 7：00～湯沢出合 8：00～御神楽沢出合 10：00～大滝下 10：30～中の大滝下 14：30～水晶沢出合 17：30(泊)

9/22　ＢＰ発 7：00～スポンジ沢出合 8：00～稜線 11：00-11：30～湯沢出合 14：30～車止め 15：30

地形図：御神楽岳(2 万 5 千)

【御神楽沢奥壁】



本谷ルンゼ
上部スラブ ハーケイル
10P 45m 右のブッシュから岩壁上へ ブッシュでピレイ
9P 50m スラブ ブッシュでピレイ
8P 50m スラブ ハーケンピレイ
7P 50m 本谷ルンゼのトラバース
6P 45m ルーツをはずし 右のリッジへ
5P 30m スラブ ハーケンでピレイ
4P 20m スラブのルンゼとトラバース
3P 40m スラブ ブッシュでピレイ
2P 40m スラブから凹角上へ ハーケンでピレイ
1P 45m 水流ゲットからスラブへ ブッシュでピレイ
流水溝の中に 所々ワンポイントが中強い小滝(2~5m)
15:50-16:15
11:00-11:30
高瀬 17:20
湯沢出合 19:05
Ⓟ 20:05
本谷ルンゼ
デトスポッジ沢
8:00
下線二重線
ドッ 今回パーティ
B.P 10/4 17:25 10/5 6:40
B.P 9/21 17:30 9/22 7:00
水晶沢
ケンスイ 20m
コルジェ出口 17:20
高巻き
コルジェ入口 13:00
滝上 12:10
滝下 14:30
コルジェ出口 11:10-11:25
(9:1) 10:30
CS3 各2m
CS8m
ケンスイ 5m
滝上 9:50
滝下 9:00
10:30
御神楽沢出合 8:40-8:50
10:00
8:30
(1:3)
笠倉沢 8:10
2m 右壁
2m
7:50
広谷川
湯沢
7:20-7:40
8:00
10/4
Ⓟ 6:35 発
7:00 発
金越 御神楽出
広谷川 御神楽沢本谷ルンゼ
2003.10.4 - 10.5
L.中島 鉢子 . 大内 信彦
宮嶋 健二 . 三井 貞彦
地形図 御神楽岳(1:25000)
遊行図 中島 鉢子

越後の沢